

Contents

まだWindows10をお使いですか?／① 「第95回日本感染症学会西日本地方学術集会・第73回日本化学療法学会西日本支部総会」参加報告／② 福岡市医師会臨床検査センター 梶子会 親睦会開催／③ 細菌検査統計報告、ちょっと一言／④

まだ

Windows10をお使いですか?



2025年10月14日をもって

Windows10の公式サポートは終了しました。この状態で使い続けると、次のような深刻な問題が発生する可能性があります。

① セキュリティ更新が止まり危険になる

サポート終了後は新しいウイルスや攻撃に対して無防備になります。過去にはサポート切れOSでランサムウェア被害が急増した例もあります。

② ソフトや周辺機器が動かなくなる

プリンター・Webカメラなど最新機器、ブラウザやアプリが非対応になり使えなくなる可能性があります。

③ 不具合が起きても直せない

Microsoft のサポートや修正パッチが無い場合、問題発生時に対処不可。「鍵の壊れた家に住むようなもの」と専門家も説明しています。

④ 個人情報・金銭情報の漏洩リスクが増加

ネット閲覧だけでもマルウェア感染し、クレジットカード情報やパスワードが盗まれる危険が高まります。



インターネットに繋いでいるパソコンがWindows10のまま使用されると大変危険です。Windows11へのアップデートもしくは買い替えをおすすめします。

第95回 日本感染症学会西日本地方学術集会

第73回 日本化学療法学会西日本支部総会

参 加 報 告

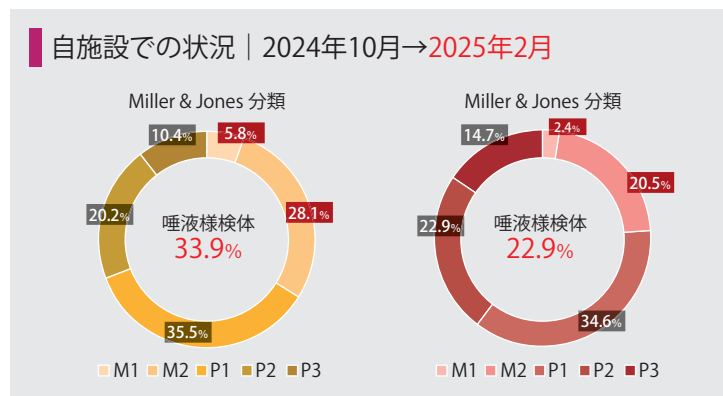
2025年11月、福岡国際会議場で開催された第95回日本感染症学会西日本地方学術集会・第73回日本化学療法学会西日本支部総会において、シンポジウム11「外来での抗菌薬適正使用を考える」に参加し、発表を行いました。

本シンポジウムでは、クリニックで診療を行う先生方、歯科口腔領域の先生方、調剤薬局の薬剤師の先生方など、多職種の先生方から、それぞれの現場での取り組みや視点が紹介され、外来における抗菌薬適正使用について多角的に情報共有されました。

私は「クリニックにおける微生物検査－検査センターとしてのDiagnostics Stewardshipへの貢献－」という演題で発表いたしました。

検査前・検査中・検査後の各プロセスにおけるDiagnostics Stewardship (DS | 診療貢献)の現状や課題について整理し、当センターとしてこれまで取り組んできた改善活動を紹介しました。また、会報誌「えんしんぶんり」やホームページを通じた情報発信についても報告いたしました。特に、えんしんぶんりVOL.130(2025年1月号)で掲載した「膿性痰での提出を」の記事紹介とその取り組みの効果について触れ、掲載翌月の検体状況を調査したところ、唾液様検体の割合が約10%低下し、改善傾向がみられたことを紹介しました。

今回の発表を通じて、今後も先生方にとって有益な情報を継続的に発信し、日々の診療に貢献できる検査結果を提供していきたいという思いを新たにしました。



微生物検査係 星紫織



kuchinashikai



福岡市医師会臨床検査センター 梔子会 親睦会開催

福岡市医師会臨床検査センター 梔子会は、検査技師・事務職員の正職員、嘱託職員にて構成されています。

さて2026年1月25日、天神西鉄グランドホテル内にあります「博多鰻屋 藤う那 天神本店」にて遅めの新年会という名目で懇親会を開催しました。

多数の方にご参加頂き、和やかな雰囲気にもまれ鰻を中心にしたコース料理やドリンクが並び、歓談を楽しみながら交流を深めることができました。

このように検査センターでは、社員間のコミュニケーション促進と職場環境の活性化を目的として、親睦会行事を実施しております。

この行事は、部署・役職を越えた交流の機会を提供し、チームワーク向上や情報共有の活性化に寄与することを目的としたものです。

今後も、このようなイベントを行っていきたいと思います。

福岡市医師会臨床検査センター 梔子会 会長 北島 史隆

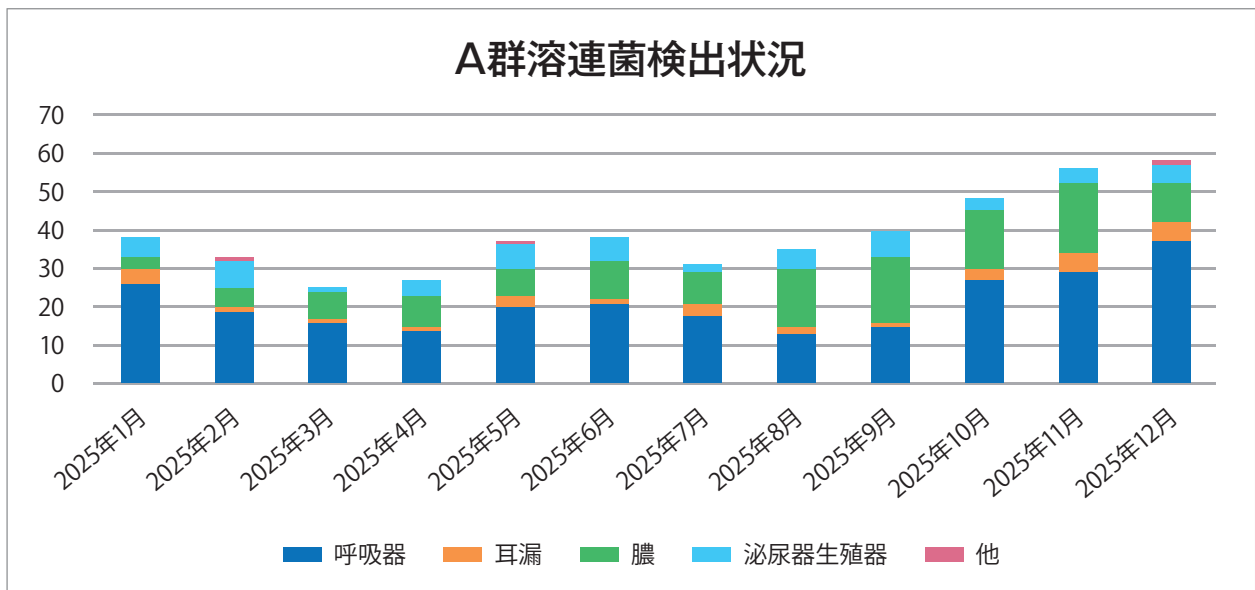
細菌検査統計報告

(A群溶連菌検出状況)

当検査センターで受託した細菌検査における細菌検出状況を一部取り上げてご報告いたします。その他の検査材料の細菌検出状況、薬剤感受性情報、薬剤耐性菌検出状況、腸管病原菌検出状況は、当検査センターホームページに掲載しています。

<https://www.city.fukuoka.med.or.jp/kensa/kensa.html>

A群溶連菌(A群溶血性レンサ球菌 | *Streptococcus pyogenes*)は上気道炎や化膿性皮膚感染症などの原因菌となるグラム陽性連鎖球菌です。2025年1月～2025年12月に当センターから検出されたA群溶連菌(466検体)の検体別検出状況を月毎に示します。



年間を通して呼吸器由来の検出が最も多くなっています。3～4月は比較的少ない一方、5～7月には軽度の増加がみられ、特に夏季は膿検体がやや増える傾向が確認されました。さらに10月以降は全体の検出数が顕著に増加し、12月が年間最多となりました。

ちょっとひと言

日中の日差しも大分暖かくなり、外出する機会が増える季節がやってきた様に感じます。ただ冬の寒さで固まり根っこの生えた体は頑なにこの現実を受け入れず、休日は家でまったりゴロゴロする事を望んでいるオーラを発しています。

しかし、最近では季節の移り変わりを感じにくくなって気が付いたら固まった体がドロドロに溶けるくらいの猛暑が家の玄関をノックして、来たよ、とあっという間にやって来そうです。

まだ少し寒いかもしれないけど頑張ってウォーキングなど軽めの運動をして暑くなる前に少しでも体力をつけないと、と思う今日この頃です。だけどゴロゴロの誘惑に勝てるかどうか？そこが1番の問題です!!

検査1課 藤本 雅男

福岡市医師会臨床検査センター

〒814-0001 福岡市早良区百道浜一丁目6番9号

TEL 092-852-1506 FAX 092-852-1511

<https://www.city.fukuoka.med.or.jp/kensa/kensa.html>

E-mail : fma@city.fukuoka.med.or.jp

編集委員 田川 恭平 東田 和子 田中 進一 高下 誠司 西尾 美紀子 龍 昇太郎 井手 明宏